

就農案内

読本

農業を
仕事に
したい人の
完全攻略
マニュアル



きっと見つかる あなたの農業

全国新規就農相談センター

<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/>

Tel.03-6910-1133

農業ってどんな仕事？

農業に関心がある、
農業を始めたい・・・。
でも、農業ってどんな仕事？

耕種農業は、米や、麦などの穀類、大豆などの豆類、ジャガイモなどのイモ類、野菜、果樹、花き・花木、茶、タバコなどの工芸作物があります。さらに野菜や花き、果樹は、普通の畑で栽培する露地栽培と、ハウスの中で集約的に栽培する施設栽培に分けられます。

農業とひとことで言っても様々な種類があります。大きく分けて、土を耕して作物を育てる耕種農業と、家畜を育てる畜産に分けられます。国内生産額の約7割が耕種農業で、3割が畜産です。農業では、作物や家畜の種類を「作目」として分類します。どの作目を選ぶかによって、農業経営のやり方、仕事の内容が変わってきます。

日本人の主食である米は、沖縄から北海道まで全国至る所で栽培されています。ほとんどが水田で作られますが（関東など一部では畑で作る陸稲があります）、需要量に対して生産が過剰なため、水田の約4割で米以外の麦、大豆、牧草、野菜などがつくられています。

耕種農業



穀類

米・麦・トウモロコシ

芋類

ジャガイモ、サツマイモ

豆類

ダイズ、アズキ

野菜

ニンジン、トマト、キャベツ、ナス

果樹

ミカン、リンゴ

花き・花木

菊、バラ

露地栽培



施設栽培



農業ってどんな仕事？

畜産は、家畜の大きさによって大家畜(牛、馬)、中家畜(豚、羊)、小家畜(鶏)に分類されます。

牛は、さらに肉を生産する肥育経営(肥育用の子牛を生産する繁殖経営もあります)と、牛乳やチーズなどの乳製品の原料となる生乳を絞る酪農に分けられます。生乳を絞るには子牛を産ませる必要がありますが、メスは乳用牛となり、オスは肉用牛(乳用種)として肥育されます。

豚は養豚と呼ばれ、肉用に肥育されます。鶏は養鶏と呼ばれ、卵を産ませる採卵鶏(レイヤー)と肉を生産するブロイラーに分けられます。このほかにも、ダチョウ、鹿、イノシシなど、変わった家畜もあります。

畜産



大家畜(牛、馬)

肥育・繁殖(肉)と酪農(生乳)

中家畜(豚、羊)

肥育(肉)

小家畜(鶏)

採卵、ブロイラー(肉)

さらに、生産した作物や畜産物を食品加工して直販やレストランなどで提供して付加価値を高める経営多角化も進んでいます。経営多角化は6次産業*と呼ばれ、農業の楽しさと事業としての高い可能性を表しており、取り組む農業者が増えています。

*6次産業=農産物の生産(1次産業)×農産加工(2次産業)×販売・サービス(3次産業)

6次産業

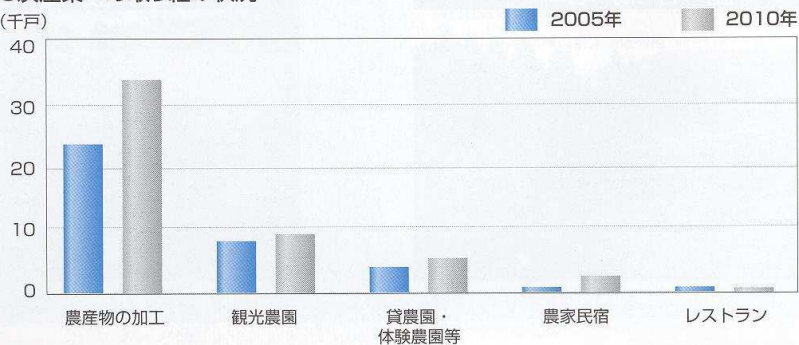
食品加工
漬物、菓子

直販
農業体験・交流

レストラン

6次産業への取り組み状況

(千戸)



(2010年産業センサス)

就農までのみちすじ

※実際にはいろいろなパターンやケースがあります。
記述はおおまかなモデルケースとお考えください。

情報や基礎知識の収集

- 1 農業を始めるための情報を集めたり、就農相談のために全国・都道府県新規就農相談センターなどの相談窓口を訪ねよう。また、こうした窓口が開設しているホームページなどで情報を集めよう。
- 2 全国新規就農相談センター主催の「新・農業人フェア」に参加しよう。
- 3 農業を体験したり、農業の基礎知識を身につけよう。

体験・現場見学・短期研修

農業法人へ就職したい人……………P8へ

■ 求人情報の収集

相談センターホームページや
ハローワーク

■ 就職活動

- 1 都道府県新規就農相談センターへ相談
- 2 就業相談会(新・農業人フェア)に参加
- 3 農業法人等へ電話・訪問

法人就職・公的研修を経て独立就農したい人・P12へ

■ 研修情報の収集

(農業法人・市町村等の受入支援情報)

■ 研修機関へ事前体験・ 申し込み・面接

独立就農したい人……………P14へ

■ めざす農業経営像を描こう

- 1 どんな作物を栽培するか、作物を考えよう。
- 2 作目は単一の専作経営か、複数以上の複合経営か、経営のタイプを決めよう。
- 3 露地栽培か施設栽培か、通常栽培か有機栽培か、栽培方法の選択を考えよう。
- 4 農作業に従事できる労働力と作目・経営タイプ・栽培方法の選択、経営規模などがマッチしているか、考えよう。
- 5 選択作目や生活条件、都道府県、市町村の支援措置などから就農候補地を検討しよう。
- 6 地域で生きていくための人間関係が大切なので、できるだけ現地を訪ね、自分の足で農地・住宅・研修先・生活・農業経営環境などの関連情報を収集しよう。

■ 5つの生産資源を取得しよう

技術や
ノウハウの取得

資金の
確保

農地の
確保

機械や施設の
確保

住宅の
確保

■ 営農計画の作成

生産計画、販売計画、資金計画を明確なプランにしよう。

■ 就農

自分の農業経営確立への第一歩です。

就農 までのみちすじ ～タイプ別ミニ事例集～

研修制度を利用→独立就農 **花き**

脱サラし、 あこがれの農業を仕事に

山形県飯豊町 田中 俊昭さん(42)

就農の動機

大学卒業後は、農業関係の出版社に就職したが、取材などで出会った農業者と話さうちに、「職業」としての農業に魅力を感じるようになり、「気力と体力が充実している今しかない」と感じた

就農の準備

東京で開催された「新・農業人フェア」に参加し、就農に関するさまざまな情報を集め、「農業体験バス・ツアー」にも参加、農業研修制度を利用し、1年間の研修を受けた。

アドバイス

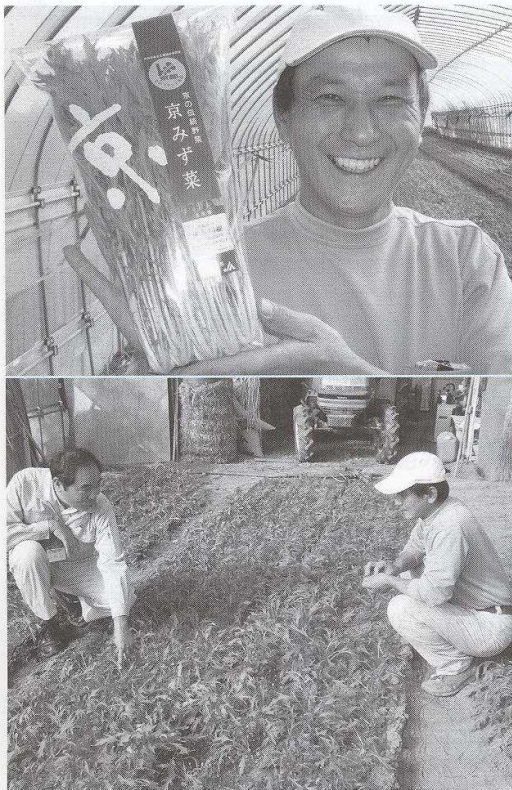
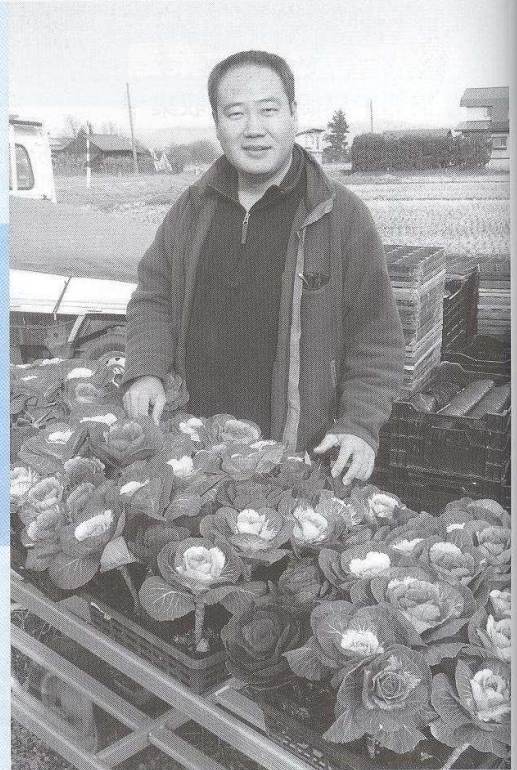
農業には落とし穴はいっぱいありますが、むしろ落ちた方がいいと思っています。そこで「ここに落とし穴があるぞ」と親身になって声をかけてくれる人を見つける事。人と人のつながりを大事に。

【田中俊昭さんのプロフィール】

東京都生まれ。大学経済学部在学中に農業経済関係のゼミに入った事がきっかけで、卒業後は農業関係の出版社に入社。企画、営業、販売、編集などを12年担当。就農を決意し、町の農業実習生として1年間の研修後、2004年4月に就農。

【経営概要】

約300坪の2棟ビニールハウスと約150坪の露地で、ガゼニア、オダマキ、パンジー、ハボタンなど10種類の花きを生産。販売はJAや地元出荷組合を通じてホームセンターへの出荷、市場への出荷や直売など。年間販売額は約400万円。労働力は本人と研修生、繁忙期にはパートを雇用。



農家で研修→経営を継承して独立 **野菜**

研修先農家の経営の一部を継承し、 無理のない形で就農

京都府福知山市 岡本 晴樹さん(41)

就農の動機

前の職場で知り合った鉢物生産者の「想い」に感動。自分も農業がやりたいと、就農を決意。

就農の特徴

岡本さんの就農の特徴は、なんといっても既存の農家の経営を継承したことだ。離農者の農地、機械、施設を新規参入者が引き継ぐことはよくあるが、岡本さんの場合は技術や販路も含めて生きた経営を引き継いだ。

アドバイス

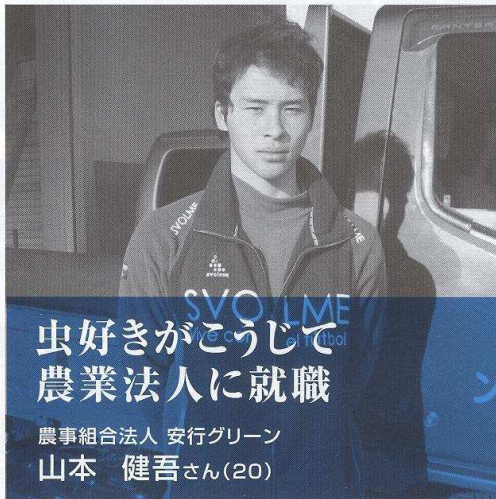
家族の理解が本当に大切です。農業を事業として行う以上は、準備資金は絶対に必要です。

【岡本晴樹さんのプロフィール】

大阪府出身。農業高校を卒業後、鉢物のレンタルを行う会社に20年間勤務し、花の仕入れ・配達業務に携わる。京都農林水産業ジョブカフェへの相談を通じて福知山市の大西敏郎さんの元で2008年から研修。研修中は、京都中丹農業改良普及センターがサポート。岡本氏、大西氏、田中氏(普及センター職員)の三者で話し合い、大西氏の農場を経営継承する形で2010年就農。

【経営概要】

水田2haと畑15aで露地キュウリ12a、施設みず菜3a。米は経営移譲農家(大西さん)の名義で直接販売。キュウリ、みず菜は市場出荷。みず菜はJA京都の共同販売。「京のブランド産品」として氏名が印刷されて販売。年間販売額は300万円程度。労働力は本人のみ。



虫好きがこうじて 農業法人に就職

農事組合法人 安行グリーン
山本 健吾さん(20)

農業法人に就職 花き

会社の目標

事業規模拡大に伴い、生産管理的役割を担う常時雇用者を増やすほか、パート雇用やシルバー雇用面でも、本人の出勤できる希望日をもとに1ヶ月単位で調整するやり方をとり、働きやすい職場作りを目指している。

【山本健吾さんのプロフィール】

埼玉県さいたま市南区(旧浦和市)出身。小さい頃から虫が好きで、生物系の勉強をするため県立いずみ高校に入学。植物について研究する学科で学び卒業。3年生の夏の農場見学の際、学校で学んだことが活かされそうだと確信。2009年4月、安行グリーンに入社。ポット苗木の生産から出荷まで担当する。農場までは自宅からバイクで約20分かけて通う。

【農事組合法人 安行グリーンの経営概要】

埼玉県川口市内の会社敷地約2haの農場では、ブルーベリーを中心にラズベリー、ジュンベリーなどのベリー類のほか花木を含めたポット苗木を計画的に大量生産、茨城県内の農場で育成を行う。海外からの新種苗木を直接導入するほか、海外の大学と連携した新品種の育成にも努める。苗木の販売先は全国展開のホームセンターや花屋がほとんどで、販売部門は長男の小林隆行氏が社長を務める株式会社小林ナーセリー(年商6億5000万円)が担当し、安行グリーンは生産部門を担う。安行グリーンの年商は1億5000万円で、労働力は常時雇用4人、パート2000人/日、シルバー(高齢者)雇用700人/日。



経営参画という 新たな就農スタイルで 自分の道を歩む

岡山県真庭市
農事組合法人 清藤 理事 平泉 繁さん(46)

農業法人に就職→経営に参画 果樹

就農の動機

「敷かれたレールの上ではなく、自分なりの道を歩みたい」と感じ、生まれ育った大阪を離れ、農業法人への転職を決意。

研修

生産現場での研修以外にも、経営会議や顧客との商談に参加したほか、経理処理も行い、販売や経営についても学び、販売担当理事として経営に参画。

アドバイス

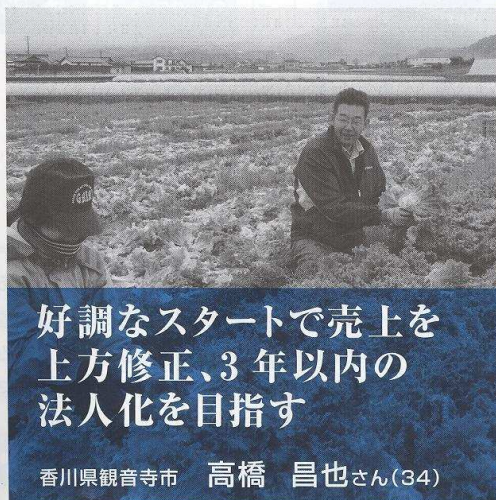
就農に最も必要なのは、知識ではなく障害があっても乗り越えられる力だと感じています。

【平泉繁さんのプロフィール】

1965年生まれ大阪府出身。大学卒業後、大阪府内のコンピューターメーカーでシステムエンジニアとして11年間勤務。岡山県の就農支援制度を利用し、1998年から(農)清藤で研修。2000年に販売担当理事として同法人の経営に加わる。家族は妻の浩美さん(46)と娘が2人。

【経営概要】

魅力ある農村社会の建設を目指して1993年に設立された農事組合法人清藤(奥田信介代表理事)は、岡山県真庭市でナシとブドウを生産。主に直接販売で、年商3800万円。作業従事者は常勤理事4人を含めて総勢13人。経営の意思決定に加わりたいという熱意を持った者を組合員として雇用し、数年後に出資金200万円で理事として経営に迎えている。



好調なスタートで売上を 上方修正、3年以内の 法人化を目指す

香川県観音寺市 高橋 昌也さん(34)

農業法人に就職→独立就農 野菜

就農の動機

「人間は何をするにせよ、食べないと始まらない」
精神的豊かさと物質的豊かさのバランスで「農業」を選択。

就農

農地や納屋の取得は、近所の農家や周りの支援があって就農できた。

アドバイス

農業と言っても馴染みがないだけで、他の産業と成功の仕方は同じ。なら難い事はないと思っています。

【高橋昌也さんのプロフィール】

兵庫県神戸市出身。大学卒業後、食品系のNGOに勤務。その後温泉旅館、青果物販売業を経て、2008年8月から香川県観音寺市(旧豊浜町)の(株)合田農園で研修し、2010年6月に独立就農。

【経営概要】

農地1.8haの農地で、非結球レタス2.5ha、青ネギ0.6ha、タマネギ0.6ha、水稲1.1haを生産。販売は香川県南農協を通しての出荷と、関西地域の荷受け業者・仲卸などへの直販。年間販売額は、当初800万円を計画していたが、順調な滑り出しで1400万円に上方修正。目標は3年目に3000万円で、早期の法人化を目指す。労働力は本人と研修生が2~4人。

※2010年度 新規就農事例集より

就農案内読本 5

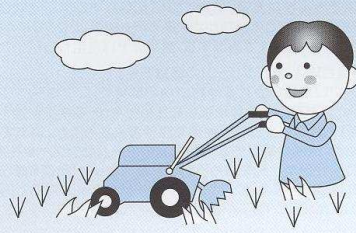
就農イメージに応じた対応方向

あなたの希望

対応方向

相談窓口

まずは農業体験をしたい



農業に関心があるが未経験なので、まずは農作業を体験したい

将来農業をしたいが、当面は今の仕事を続けつつ農業の勉強・体験をしたい

農業に関心がある。将来の仕事にするか未定だが、まずは農業を体験したい

農業体験・イベントなどに参加する

市民農園、滞在型市民農園を借りる

土・日、夏期休暇を利用して農業を体験する

農業インターンシップを受ける

➡ P32

全国の新規就農相談センターに問い合わせ

➡ P38、39、41

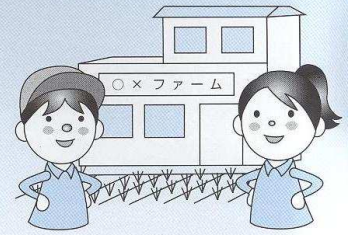
市町村役場に問い合わせ

農業大学校や民間の研修教育施設に問い合わせ

全国の新規就農相談センター、日本農業法人協会へ問い合わせ

➡ P38、39

農業法人



農業法人で就職前の事前体験をしたい。

農業法人に就職したい。

農業法人に就職する

➡ P8

求人・研修情報を全国新規就農相談センターのホームページで検索する

に就職したい



就職について
全般的なこと
を知りたい

将来、独立して農業を
したいが、技術や資金
に乏しいため、まず農
業法人に就職し、農業
技術も学びつつ適性も
確かめたい

農業法人で
研修を受ける

➡ P8、12

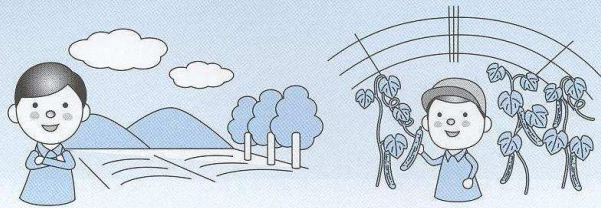
全国新規就農相談
センターなどが主催
する農業法人合同
会社説明会に参加

➡ 裏表紙

全国・都道府県
新規就農相談
センターに情報
を問い合わせ

➡ P38、39、41

独立して農業を始めたい



農業を始めるために
必要な情報や事柄
など、全般的なこと
を知りたい

将来、農業経営を
したいが、技術や
資金が乏しいため、
生活を確保しなが
ら技術を学びたい

農業を始めるため、
資金や住宅の確保、
農地取得、技術習得
等の課題をクリアし
て、就農したい

国・県・市町村段階
の支援措置利用の
可能性を探る

➡ P13

酪農の場合、
酪農ヘルパー
を検討

就農相談窓口で
相談しながら
就農をめざす

後継者がいない
農家の経営を引
き継ぐ

全国・都道府県
新規就農相談
センターに相談
する

➡ P38、39、41

酪農ヘルパー
全国協会に相談
する

➡ P23

あなたの希望

対応方向

相談窓口

農業法人に就職する場合の基礎知識

農業法人に就職する

研修を経て独立する

自ら農業経営を始める

就農を支援するさまざまなしくみ

新規就農相談センターとは

「農業法人」とは

「農業法人」とは、“法人形態”で農業を営んでいる会社などの総称です。農業法人は、全国で22,000法人あります。

このうち、“農業経営を行うために農地を借り入れたり買入れたりする（取得する）ことができる法人”を「農業生産法人」といいます。

農地を利用して農業経営を行っている「農業生産法人」は、全国で12,000経営あります（2011年現在）。このうち株式会社が72%、農事組合法人が26%という経営形態になっています。

農業法人は、家族だけで設立した法人（一戸法人）から従業員が数百人といった大規模な法人まで様々なタイプがあります。経営作目も、稲作だけといった単一作目の法人経営は少なく、ほとんどの法人がたとえば稲作と野菜や果実生産を組み合わせるなど複合的な経営です。また、農業は第6次産業（1×2×3次産業＝6次産業）といわれるように生産に限らず、加工・販売部門などへ経営を多角化して、観光農園や農村レストランなどの経営も増えています。

経営の拡大や多角化を進めて、年間を通して雇用を必要とする農業法人が増えているのです。



農業法人への就職

新規就農者のための

就農には、①独立して自営の農業を始める（独立就農）、②農業法人に就職して従業員として農業にたずさわる、という2つの道があります。

「独立就農」のためには相当の資金と農業技術が必要とされますから、20～30歳代の若者たちにとって少しハードルが高くなります。しかし、「農業法人への就職」は、給与をもらいながら技術も身につけられます。生活を安定させた後に何年かして独立したいという若者たちにもうってつけの就農のスタイルです。

法人で農業をするには、初心者を対象に農業技術の習得を目的とした「研修」という形と、雇用契約を結ぶ「雇用」の形があります。「研修」の場合には、研修費用を支払う

ものから、無報酬のものや手当が出るものまで様々な形態があります。また、研修目的であっても「雇用」形態をとる場合もあります。

農業法人への就職という就農スタイルは近年定着し、多くの農業法人にとって新規就農者は欠かせない労働力となっています。労働力を確保したい農業法人では就業規則が整備されつつあり、労働保険、社会保険、福利厚生も整ってきています。ただ、給与水準はそれほど高くはないところが多いのが現状です。経営者へのアンケート結果では、初任給水準が高卒で月15万円（14～16万円）、大卒で17.3万円（14～20万円）になっています。

農業法人で働く 目的の明確化

1. 農業法人で働くこと自体が目的なのか、将来の独立のためのステップなのか考えよう。
2. 作目、地域、労働条件の希望を整理しよう。
3. 勤務内容は、農作業中心か、加工、販売、事務作業が中心か、希望を整理しよう。

希望する 農業法人を探し、 交渉しよう

1. 求人情報などの情報収集を行おう。情報収集方法としては、新・農業人フェア、全国新規就農相談センターHP内の求人情報、(社)日本農業法人協会、都道府県新規就農相談センター、各農業法人のHP、ハローワーク、民間の求人誌などが利用できる。
2. 候補となる法人が見つかったら、全国農業会議所新規就農相談センターの農業インターンシップ制度などを活用して、実際にその法人で農作業体験、研修をしよう。
3. 農業法人の担当者と、勤務内容、勤務条件、将来像などについてよく話し合い、お互いが合意したならば労働契約を結ぼう。

就 農

独立希望の方は、学んだことを活かし、独立に向けて動きだそう。

農業法人に就職する

研修を経て独立する

自営農業経営を始める

就職を支援するさまざまな取り組み

新規就農相談センターとは

就職先の農業法人を探す

農業法人に就職する

研修を経て独立する

自ら農業経営を始める

就職を支援するさまざまなしくみ

新規就農相談センターとは

全国新規就農相談センターのホームページで、求人をしている農業法人などの情報を提供しています。

ホームページアドレス
<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/>

また、全国農業会議所（全国新規就農相談センター）は、職業安定法にもとづく無料職業紹介事業を行っています。都道府県新規就農相談センターでも2004年度から無料職業紹介事業が行えるようになり、実施のセンターは順次、拡大中です。

とくに優秀な人材を全国から広く募集したいという農業法人経営者は、全国新規就農相談センター主催「新・農業人フェア」の農業法人合同会社説明会などに積極的に参加しています。この説明会で実際に経営者と対面して、直接、会社の事業内容などを聞くことができます。説明会に参加することをおすすめします。



新・農業人フェアの様子



求められる人物

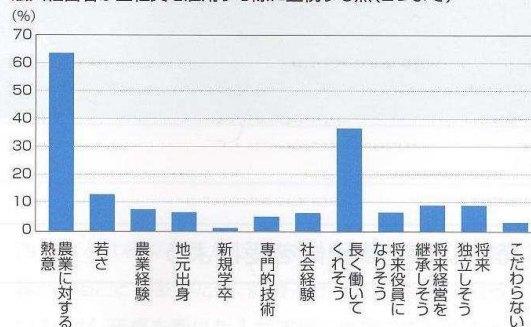
農業法人の多くが、生産だけでなく加工・販売部門などを取り入れて経営を多角化しています。このため、新商品の企画・開発や販売先の新規開拓など新しい業務が発生しています。これまで“生産専門”だった農業者にとって、農業以外の産業でこうした企画・販売部門のノウハウを身につけた人たちは重要な人材といえます。

農業経験があるか、ないかについては、経営者の多くはあまり重要視していないようです。農業経験よりも、農業に対する熱意ややる気、植物や動物が好き、健康・体力ということの方を重視して、人を採用しています。

農業法人に就職してから何年後に独立する人もいますが、農業法人の従業員として一経営部門や一部の農場経営

の責任者になる人もいます。また、経営の継承者や「右腕」となって経営をサポートしてくれるパートナーとなってくれる人材を求めている農業法人も少なくありません。

法人経営者が正社員を雇用する際に重視する点(2つまで)



農業法人における雇用に関するアンケート調査結果より(2010年)

農業法人に就職する際の留意事項

特定の農業法人に興味をもち就職を真剣に考えはじめたら、その農業法人の経営現場に実際に足を運ぶことが大切です。家族がいる方は同伴するとよいでしょう。農業法人に就職することは、その地域・農村で生活することになります。生活環境に家族全員が満足することが、新規就農の場合と同じように、農業法人への就職を決める場合も大切です。

農業経験がまったくなく、農業への適性を不安に思っている人は、正式採用の前に研修のかたちで何日か体験する

ことをおすすめします。経営者と相談してみてください。農業法人への就職は、新規就農にくらべてリスクが少ないとはいえ、安易な選択は後悔のもとです。採用前の事前体験にも、農業インターンシップ制度を活用できます(P32)。

就職(採用)にあたっての約束事は、必ず「雇用契約書」などの書面で行ってください。後々のトラブルを回避するために必要なことです。なお、農業法人は労災保険、雇用保険、健康保険、厚生年金への加入が義務づけられていますが、契約時に確認した方がよいでしょう。

農の雇用事業(P33)

全国農業会議所では、農林水産省の補助を受け、農業法人等の農業経営体が、就農希望者を雇用して研修を実施する場合、研修にかかる費用の一部を助成しています。

すでに、約7,900名(2012年4月時点)の研修生が農業法人等の生産現場で研修を行っています。

法人就職、公的研修を経て独立就農するための基礎知識



農業法人に就職する

研修を経て独立する

自ら農業経営を始める

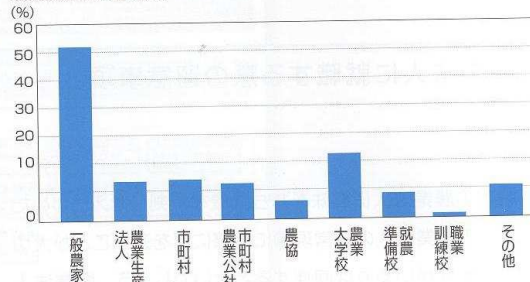
就職を支援するさまざまなしくみ

新規就農相談センターとは

充実している研修を受けよう

独立就農するには、①技術・ノウハウ、②資金、③農地、④機械・施設、⑤住居の 5 つの要素が必要ですが、就農希望者が 5 つの要素の全てを自ら準備することは容易ではありません。そこで、農業法人に就職して、技術を学びながら農地を探し、資金を工面したり、あるいは市町村が設立した会社などによる研修・助成を受けて独立就農を目指すことが、有効な独立就農方法となります。

新規就農者の研修先



新規参入者の就農実態調査結果より(2010年)

法人就職から独立就農するには

1 農業法人

農業法人は、生産技術、販売・加工、経営管理など様々な分野で新しい試みを行っているため、独立就農を目指す人にとって学べるものがたくさんあります。そのため、いずれ独立就農をしたい人にとっては、まずは農業法人で従業員として働きながら自らの適性を判断するとともに、技術や経営ノウハウを学ぶことが有効です。

農業法人で働くことで、独立就農に向けた人間関係を築

くことや、就農可能性のある地域（農地）の紹介を受けることもあります。勤務する農業法人の先輩従業員が独立就農していたり、近隣農家が声をかけてくれることがあるからです。

給料をもらいながら農業するため、就農資金の準備を行うことも可能ですが、一般に農業法人の賃金はそれほど高額ではないため、予定している金額まで貯めるには相当の時間がかかる場合もあります。そのため、資金準備の面で考えれば、他の仕事を続けた方が独立就農に近づけることもあります。

2

農業法人が
設立したNPO法人

農業法人の中には、単なる従業員としてではなく、独立就農したい人を募集しているところもあります。このような法人は、独立就農者を誕生させる社会的意義のために支援しているとともに、活力ある独立就農希望者が、自らの経営の活性化ためにも重要だと考えているようです。中には、独立就農者を自社グルー

プの一員として位置づけ、販売面で提携することで独立就農者の経営の安定を支援する法人もあります。

独立就農を支援している農業法人の中には、近隣農家とともに NPO 法人を立ち上げて、自社の経営とは分離して就農支援を行っているところもあります。そのようなところは、研修できる経営作目が多岐にわたることや、短期研修制を受け入れていることが多いため、就農希望者にとって利用しやすくなっています。

公的な研修を受けて独立就農するには

1

都道府県・市町村・
農業公社など

全国各地のいくつかの都道府県・市町村・農業公社などでは、就農希望者に対して独立就農するための研修を行い、地域農業の新たな担い手を育成しています。研修内容や助成

内容などは様々な形があります。研修地域での就農が前提となることが多いため、就農できる地域、作目が限られています。研修を受けた人が実際に就農できる可能性は高いため、自分の希望する就農スタイルと合致した場合は、非常に魅力的な制度です。20～40代の夫婦での就農に向いていることが多いようです。

都道府県の研修内容（例）

県内の先進的な農家での研修を行い、研修地域での就農を支援。

例)	静岡県	研修期間 1 年間	研修人数 40 人	研修手当は研修先との調整
	長野県	約 280 名を先進的農家として登録	概ね 2 年間	研修手当 4 万円以内/月など
	岡山県	農協や先進農家で 2 年以内の研修	研修手当 10～15 万円程度/月	

市町村・農業公社の
研修内容（例）

市町村が設立した研修施設で研修を行い、研修地域での振興作目を生産する農業者として就農させる。

例)	北海道	(有)別海町酪農研修牧場	3 年間座学及び実務研修	賃金 13 万円/月	宿舎有り
	鳥取県	鳥取市(国府地区)	2 年間座学及び実務研修	水稻、野菜(施設、露地)、果樹(ブドウ、梨)	研修手当 10 万円/月
	愛媛県	久万高原町	町外出身者の場合	研修手当 15 万円/月	就農初年度生活費貸与(希望者) 施設園芸でトマトやイチゴなど

※支援内容は、変更することがありますので、直接ご確認ください。

2

農協出資法人、
第3セクターなど

独立就農を支援する組織には、農協が単独で設立しているもの、農協と町が共同出資しているもの、町と民間企業と地元農家が共同出資しているものなど、様々な形態があ

ります。これらの組織のほとんどは、単独で就農を目指すよりも高い就農率、定着率となっています。研修内容や雇用形態、住宅、研修修了生の進路などを確認した上で、活用しましょう。

自ら農業経営を始めるための基礎知識

農業法人に就職する

研修を経て独立する

自ら農業経営を始める

就農を支援するさまざまなしくみ

新規就農相談センターとは

めざす農業経営のビジョンを明確に

新しく農業を始めるということは、新たに事業を開始するということであり、自分が将来「どこで、どんな農業をやるのか」意思を固めることが大事です。



やりたい農業経営のイメージ作り

一概に農業といっても、稲作、野菜、花き、果樹、畜産、と作目の幅が広く、しかも、野菜、花きは露地栽培のほか、集約的な施設栽培(水耕栽培等)もあり、さらに栽培方法も農薬や化学肥料を使用する通常栽培法のほかに、農薬や化学肥料を使用しない有機農法(考え方によっていろいろやり方がある)などの独自のやり方もあります。

また、経営のスタイルとして、経営作目を単品に絞る単一経営(専作経営)を採用するか、経営リスクの分散や家族労働力の適正配分、または耕種部門と畜産部門の有機的結合に着目して複数作目を

経営する複合経営を採用するかという問題もあります。

そこで、自分が就農を意識するようになった動機も十分にふまえて、自分がやりたいと頭の中に描いている農業のイメージを固め、窓口相談などを通じて、次第に具体化していく必要があります。「どんな農業をやるのか」を具体化したのが営農計画で、一般企業の事業計画にあたります。農産物の販売や簿記記帳も必要になります。



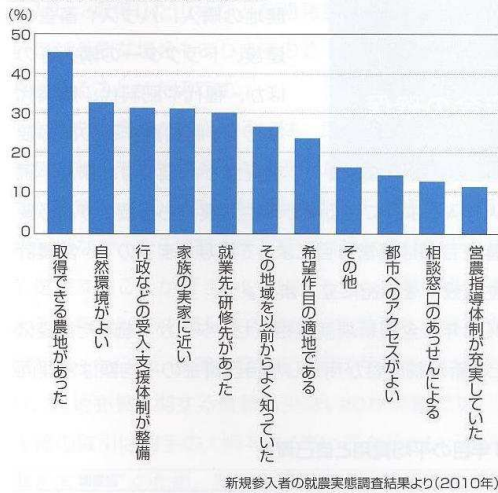
就農地域の選定

就農希望者にとって農業をどこでやるか、いわゆる就農地域は全国どこでもいいというわけではないでしょう。買ったたり借りたりする農地があるかないかは別として、ある程度は希望する地域を決める必要があります。その際、作物にはその作物に適した気象条件や土壌条件があることから、「どんな農業をやるのか」「どんな作物を作りたいか」も候補地域を選ぶための重要な要因になります。

希望している作目の主産地では、生産技術の指導体制や生産物の出荷体制が整備されており、初めて農業に取り組む人にとって有利な面が多いと思われます。

また、家族の同意を得るためにも生活条件も考慮する必要があります。

新規就農者の、就農地選択の理由



農業を始めるのに必要な5つの要素と確保のポイント

新しく農業を始めるには、①技術・ノウハウ、②資金、③農地、④機械・施設が必要となります。また、多くは移住をとまなうため、⑤住宅も見つける必要があります。

農業経営者になることは、事業を新たに起こすこと(起業)と変わりありません。ただし、自然相手の生物生産であることや、生産と生活の現場が一体化して地域社会との関係が特に密接である、などの特長があります。

1 技術やノウハウの習得

農業を営むには確かな技術が必要です。しかも、趣味ではなく、職業として農業を営むのであれば、なおさら、ある程度農業技術を習得しておく必要があります。

新規就農相談者の多くの方が、農業未経験者または体験程度です。現在の農業は科学技術の進歩により機械力や科学力をフルに活用する技術が開発されていますが、農業生産の基本は生物や自然を相手にするものですから教科書通りにいかないことが多く、また家庭菜園程度の広さで手間をかけてやっていた経験が、出荷するような大きな面積になると、全く役に立たないことがあります。しかも、自然条件に左右される農業技術は地域によっても少しずつ異なってきます。

そこで、「作りたい作目や飼いたい家畜」、「就農したい地域」など、やりたい農業のイメージが決まったら、

栽培・飼養技術や経営管理のやり方を身につける必要があります。

少なくともその作物の“種まきから収穫まで”の1サイクルぐらいの経験は積んでおくことが必要でしょう。

また、「何をやりたいか」が決まっていなくても、体験の意味で研修することもひとつの方法です。

なお、最近、新規就農希望者の目的に応じたいろいろな研修制度が整備されてきました。その方法も経費負担が自前か、公的支援を受けるか、その研修期間が短期か長期か、研修内容についても、机の上での学問的なものも含むか、実際に農作業を行う実習中心か、などいろいろです。

また、研修のスタイルとして大都市圏に働くサラリーマンなどが土・日曜日や夜間に農業の基本的知識や技術が学べる就農準備校や、ボランティアをしながらの方法、1年を通じた作業体験なども用意されるほか、指導農業士など先進的な農家や農業法人で実践を通じて知識・技術を習得する農家研修、道府県農業大学校や民間の農業者育成機関での実践教育などがあります。

2 資金の確保

新しく農業を始める場合、農地の購入、ハウスや畜舎の建設、トラクターの購入等のほか、種代や肥料代、農薬代など1年間営農するのに必要な資金が必要です。また、現金収入が入るようになるまでの生活資金も必要です。必要な営農資金額は経営作目によって異なりますので、営農計画と生活設計を綿密に立てましょう。

2006年に全国新規就農相談センターが実施した調査によると、新規就農者が用意した自己資金の平均額は営農面

で約550万円、生活資金は約300万円となっています。ところが、実際に営農にかかった金額は850万円と、自己資金を300万円上回っています。できる限り自己資金を活用することが望ましいですが、公的な融資制度を有効に活用するのも有力な方法です（資金確保の支援24ページ）。融資制度を利用するには一定の資格要件が必要なほか、融資額や信用状況に応じ担保の設定や保証人を求められることがあり、新規参入者にとっては借りにくい場合もあります。

実際に就農した際には不時の出費も多く、自己資金中心に余裕のある資金計画を十分に練る必要があります。

就農1年目の平均費用と自己資金

	営農面					生活面		就農1年目 農産物 売上高
	機械施設 資金 A	営農資金 B	費用合計 A+B	自己資金 C	差額 C-(A+B)	自己資金		
新規参入者計	562	160	721	488	-234	265	341	
販売金額 第1位の作目	水稻・麦・雑穀類・豆類	426	96	522	619	97	237	
	露地野菜	286	102	388	420	32	208	
	施設野菜	749	185	934	526	-408	471	
	花き・花木	754	203	957	355	-602	569	
	果樹	366	121	487	502	15	138	
	酪農	1,965	822	2,787	624	-2,163	236	2,062

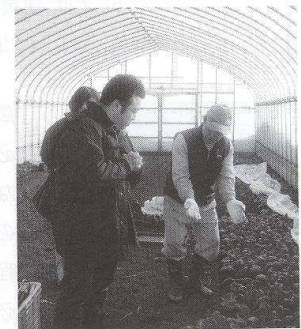
新規参入者の就農実態調査結果より(2010年)



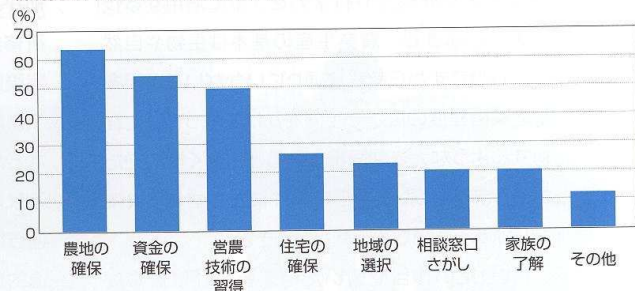
就農時の資金借入れの状況

	資金を 借入れた	資金の借入れ先					
		資金制度		資金制度			
		就農支援資金	日本政策 金融公庫資金	農協	銀行	その他	
新規参入者計	46.2	69.7	16.1	19.1	4.5	13.9	
販売金額 第1位の作目	水稻・麦・雑穀類・豆類	33.6	43.8	10.4	33.3	6.3	27.1
	露地野菜	29.7	75.3	10.4	11.7	2.6	10.4
	施設野菜	68.6	73.4	19.8	17.2	4.7	8.9
	花き・花木	74.0	69.8	18.9	20.8	1.9	20.8
	果樹	36.4	64.8	9.3	20.4	5.6	16.7
	酪農	90.7	89.2	24.3	24.3	0.0	2.7
	その他畜産	55.9	83.3	16.7	16.7	0.0	16.7
	その他	56.3	41.2	11.8	11.8	23.5	29.4

新規参入者の就農実態調査結果より(2010年)



新規就農者が就農時に苦労したこと



新規参入者の就農実態調査結果より(2010年)